

SUAM / ROOT



Vol.

3

— 景色を知る / 地図をなでる —

遠藤夏香



《じかじか》2025年 アクリル、M画用紙 34.5×34.5 cm 作家蔵
jikajika, 2025, acrylic on paper, 34.5×34.5cm, Collection of the Artist

佐賀大学美術館では、地域の芸術文化交流地点として、様々な人々が地域ゆかりの文化・芸術に触れることを目的に九州を拠点に活動をする若手・中堅アーティストを個展形式で紹介する展覧会として2024年より開始しました。

第3回目となる本展では、2010年に武蔵野美術大学大学院造形研究科油絵コースを終了し、2021年より佐賀県を拠点に活動を続ける遠藤夏香氏の作品を紹介します。遠藤氏はこれまで、他者もしくは自身が残した記憶・記録や言葉など、過去や歴史に対し、身体を基軸として制作を行ってきました。指に直接絵具をとり、紙に触れて描き出す手法によって作り出される作品は、目に見えない記憶や感情をたどった痕跡のようにも感じられます。本展のタイトルとなった「景色を知る / 地図をなでる」は、いわば作品制作を通して遠藤氏が現在暮らす佐賀という地域を知るための方法であるともいえるでしょう。本展に合わせて「記憶の中にある、個人的でささやかな佐賀の景色について」と題したインタビューを行い、新作を制作しました。あいまいでつかみにくいものを、身体を通して感じ取り、作品というかたちにする。それによって、遠藤氏は確かな実感を得ています。情報があふれる現代だからこそ、私たちにとって『実感すること』の意味や、創造性の豊かさに改めて気付かされるのではないのでしょうか。

最後に、本展覧会の開催にあたり、作家である遠藤夏香氏、遠藤氏のインタビューにご協力いただきました皆様、ならびに多大なご教示と協力を賜りました関係各位に、心よりお礼申し上げます。



《山を背に暮らす》2025年 アクリルガッシュ、M画用紙、155×110cm 作家蔵
mountain behind, 2025, acrylic on paper, 155×110cm, Collection of the Artist

遠藤夏香 ENDO Natsuka



《あっそうか佐賀は麦を栽培しているんだっ》2025年 アクリル、M画用紙 155×110cm 作家蔵
Ah, I remembered that wheat is grown in Saga., 2025, acrylic on paper, 155×110cm, Collection of the Artist



《みかんが好きでここにあります》
 2025年 アクリル、M画用紙 103×72.8cm 作家蔵
I like oranges, that's why I'm here.
 2025, acrylic on paper, 103×72.8cm, Collection of the Artist

つくることは、知ること

五十嵐 純 [本展企画／佐賀大学美術館 学芸員]

私たちは何かを「知りたい」と思うとき、どんな手段をとるだろうか。読む、聞く、見る、食べる、あるいは実際にその場所に赴き、触れてみる。そこには必ず体験が含まれている。しかし、昨今では検索機能の発達によって、言語化・視覚化された情報が簡単に手に入り、「知る」行為にかかる時間は圧倒的に短縮されたように思われる。「世界から恩恵を受けているものを、そこから抽出した『データ』に変換することで、その存在からまなべるものをわたしたちは消し去ってしまう。」(『メイキング』p.23)とティム・インゴルドも述べるように、本来的に「知る」ということは、他者と共有するための情報取得ではなく、あくまで自分自身の身体や感覚を通じて得られる経験的な営みではないだろうか。

遠藤夏香の作品における制作行為は、まさにその「知るための体験」としての創造であり、触覚的で、主観的で、身体に根差した実践といえるだろう。遠藤はこれまで、他者もしくは自身が残した記憶・記録や言葉など、過去や歴史に対して身体を基軸として制作を行ってきた。絵筆ではなく、主に自身の手指を用いて描く。描くというよりは、つくりだすといった方が適当かもしれない。記憶や言葉、他者の語り、自身の経験といった断片的な情報を、手を動かし、画面に残していく。その過程が、咀嚼となり、理解となり、消化される。感覚と手ざわりに導かれながら進んでいく生成の運動なのだ。そうして生まれた作品には、絵画における構図や色彩のような形式的な要素よりも、曖昧でつかみがたい実感が宿る。遠藤の作品は、記録や日記のように何かをとどめようとするのではなく、彷徨い、往来しながら、不確かなものを手でなぞり、確かさへ近づこうとする試みである。

近作では、これまで作品の外に併置されていた言葉が、画面の中に組み込まれるようになり、言葉とイメージ、思考と感覚が互いに影響し合いながら進んでいく新たな展開が見てとれる。群馬県に生まれ、関東を中心に生活と制作を行ってきた遠藤は、近年、子育てや移住による生活の変化を経験している。子どもの言語発達や移住先の方言との出会いは、遠藤にとって新たな「他者の言語」との向き合い方を考える契機となり、作品にも影響を与えているのだろう。タイトルとなった「景色を知る／地図をなでる」は、移りゆく居場所を確かめる行為であり、過去と現在を行き来しながら実感を探る営みと言えないだろうか。

遠藤の制作は、情報ではなく経験を通じて世界に触れようとする姿勢そのものであり、「つくる」という根源的な営みを、静かに、しかし力強く提示している。



《絵ば上手に描きんさってですね》

2025年 アクリル、M 画用紙 32.5×32.5cm 作家蔵

You are good at drawing pictures.

2025, acrylic on paper, 32.5×32.5cm, Collection of the Artist

息子が1歳くらい頃の頃、まだ言葉を話さない時に、気になったものを「あっ」と言って指差す時期があった。ちょうど桜の花の咲く頃で、街中にぽつぽつと現れてきたピンクの塊を見つけては「あっ」と声を上げ私の顔を見た。もちろん彼は説明を持たないから、真意を知ることにはできない。道にくつも同じものがあるというのに驚いたのかも知れないし、まだ言葉に分解できない感情だったかもしれない。そもそも彼が見ている桜と私が見ている桜は同じではないかもしれない。自分もかつて通ったはずだけど1歳の身体感覚は思い出せない。でもその声の響きには喜びのようなものがあり、目つきには気づきを共有しようとする意思があったと思う。わかり得ないけど、そのまなざしをわかりたかったし、わかる気がしたから「そうだね」と繰り返し応えた。

誰かの記憶や言葉の切れ端、そこから感じ取ったまなざしと、自分の身体がさっと交差する瞬間がある。名前のつかない身体反応から、私の制作はスタートしている。

描く時に、自分以外の人の言葉をはっきりと手がかりにするようになって7年ほどになる。誰かの言葉を図像にするというのは、ある意味とても

無責任で勝手なことをしているとと思う。でも引き受けてしまった感触は最後まで面倒を見たい。もらった野菜をきちんと食べ切ると同じだ。

自分の見ているものと誰かの見ているものの間を探る。やればやるほどよくわからなくなる。身体の出すコントロールしきれない色や線を信用したり疑ったりしながら紙の上に残していく。答えのないものを文字通り手探りするには指で描くという方法は合っている気がして15年以上続けている。自分とそのイメージとの距離を図るために、大きさを描き方、配置を考え、空間を作る。自分の身体からしか、世界を見ることができないというだけでよくわかる。

縁もゆかりもない佐賀に引越したのが4年前。生活は見えて聞いて触ることの繰り返しだ。もう知らないところにいる感覚はあんまりないが、何でもない日の夕方にぼーっとスーパーにいると急におばちゃんの九州弁が聞こえて視界が鮮明になったりする。そんな景色と指先の絵の具のおぼろげな境界に自分がいる。

遠藤夏香

Profile

遠藤夏香

ENDO Natsuka

1984年群馬県生まれ。武蔵野美術大学大学院修了。2021年より佐賀県在住。他者、もしくは自身の残した記憶・記録や言葉など、過去や歴史に対して身体を基軸に制作をする。指に直接取った絵具で紙に触れて描き起こすイメージを中心に、リサーチの中で得るメモ書きのようなドローイングや資料を組み合わせることでインスタレーションとし、ある事象への手触りを可視化する。主な展覧会に「手・足・口」(2025年、SAGA ART WEEK 企画展、佐賀県)、「前橋の美術 2024」(2024年、アーツ前橋、群馬県)、「新鋭作家展 第9回優秀者 遠藤夏香、木村剛士『ざらざらの実話』」(2020年、川口市立アートギャラリー・アトリア、埼玉県)など。

— 展覧会 —

SUAM/ROOT Vol.3 遠藤夏香 — 景色を知る／地図をなでる —

会期：2025 年 10 月 3 日（金）～ 2026 年 2 月 15 日（日）

会場：佐賀大学美術館 特別展示室

主催：佐賀大学美術館

企画：五十嵐 純（佐賀大学美術館）

— 記録集 —

2025 年 10 月 3 日発行

企画・発行：佐賀大学美術館

編集・執筆：五十嵐 純（佐賀大学美術館）、遠藤夏香

デザイン：殿岡 渉（あしか図案）

印刷・製本：大同印刷株式会社

佐賀大学美術館

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町 1

1, Honjomachi, Saga City, Saga, Japan 840-8502

TEL：0952-28-8333 FAX：0952-28-8215

<https://museum.saga-u.ac.jp/>